

多くの御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。
 頂戴しました御意見に対し、担当課から下記のとおり回答いたしますので、御確認ください。
 なお、回答は『体系・指標への御意見・御提案(85件)』『質問(9件)』に限らせていただいておりますので、御了承ください。
 ※全ての御意見は担当課に共有しており、今後の参考にさせていただきます。

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
1	1	1		【体系・指標】 意見・提案	安心して安全に暮らし続けられるまち、地域社会になっているか。弱者や障害を持っている方々は、町内会総会などにはなかなか出てこられず、誰一人残さず総会に出ていただき、町内会で支え合えることのできる仕組みになれば、地域共生社会の実現は可能になると思う。町内会の取組により、一つ一つの問題が解決していく、そういった視点を数値化するのはいかがか。	町内会の様々な役割が安心安全や地域共生社会に繋がっていく部分でもあると考えます。一方、町内会では高齢化や担い手不足などの大きな課題を抱えており、役割の周知とともに幅広い世代の参加が大切であり、市民意識調査を通して世代ごとの参加状況等から把握してまいります。	市民生活部地域協働課
2	1	1		【体系・指標】 意見・提案	KGIの設定が困難とのことですが、例えば地域の交流事業や町内会・自治会活動の参加者にアンケートを実施してその満足度を図ることはどうでしょうか？	地域の交流事業や町内会・自治会活動の参加者満足度を測ることは、地域コミュニティの活性化の状況を把握する上で有効な手法の一つであると認識しております。 しかしながら、すべての事業・活動についてアンケートを実施する場合、町内会や自治会など地域の担い手の方々への負担が増加することから、KGIの主観的指標として「地域コミュニティ活動が活性化していると感じる市民の割合」を設定し、この指標を通じて、市民全体の満足度を測定し、地域コミュニティの活性化を図ってまいります。	市民生活部地域協働課
3	1	1		【体系・指標】 意見・提案	自治組織設立をここ2年の間に80パーセントまで引き上げる目標掲げる	自治組織については、令和7年度中の全地区設立を目指していることから、令和8年度を始期とする総合計画後期計画においては、指標として設定することは適さないと考えております。	市民生活部地域協働課
4	1	1		【体系・指標】 意見・提案	客観KGIが設定されていませんが、ソーシャルキャピタル論等の研究を踏まえますと、市民による自発的な地域活動(団体やイベント)の数は、基本的には多いほど地域コミュニティが活性化していると捉えられると思います。	市内全体の交流事業数の把握は難しいものと考えております。 なお、KPI①については「地域における交流事業への参加割合」を設定しておりますが、測定の手法としては、例年実施しております「市民意識調査」を活用し、把握する予定としております。	市民生活部地域協働課
5	1	1		【体系・指標】 意見・提案	客観のKGIを作成することはできないのでしょうか。地域コミュニティの行事に、年に一度以上参加している市民の割合など。	ご提案の指標については、KPI①において設定しております。	市民生活部地域協働課
6	1	1		【体系・指標】 意見・提案	KGI(主観)については妥当であると思います。ただ、KPI②で設定されている加入率はやはりKGI(客観)に戻してもいいのではないのでしょうか。また、その場合、KPI①で記載の参加割合も必要ですが、むしろ、町内会、自治会での役員の若年率を向上させるべきではないのでしょうか。町内会役員の高齢化は継続性の観点から課題と感じます。当然、若者は忙しく、とかく面倒くさいイメージがあります。また、今、町内会・自治会が担っている活動の全てを行うことは出来ないと思います。むしろ、若年層の役員を増加させることで、今、町内会で担っている活動のうち、出来ないと判断されるものはそぎ落とし、コミュニティの維持に注力出来るような組織体制に変革させていく、そのことが、町内会への加入率向上につながるのではないのでしょうか。	町内会は地域コミュニティの基盤の一つであり、その活性化は共生型社会の実現に欠かせないものと考えております。一方、地域コミュニティは町内会に限らず、様々な主体で成り立つものでもあります。 当節の体系としては、細節1において学校やNPO、民間企業等の多様な主体による地域活動を推進し、細節2において町内会・自治会等による地域活動を推進することとしました。 2つの細節により、KGI(主観)の達成を目指すこととしております。 なお、若年層の地域への参加については、ご指摘のとおり、コミュニティの維持に必要な不可欠と考えていることから、来年度実施する「市民意識調査」において、年代や活動種類ごとの参加状況を分析する予定としております。	市民生活部地域協働課
7	1	1	1	【体系・指標】 意見・提案	地域交流事業への年代別参加割合を求める。	KPIとして設定している「地域における交流事業への参加割合」については、例年実施しております「市民意識調査」を活用し、数値を把握する予定としておりますが、回答者の属性情報を用いて年代別の参加割合を分析する予定としております。	市民生活部地域協働課
8	1	1	2	【体系・指標】 意見・提案	町内会、自治会への加入率ではなく参加率を求める。	町内会・自治会の活動への参加率については、現状データの収集は実施していないため、現時点では定量的な数値の設定が難しい状況にあります。 しかし、細節①におけるKPIにおいて、町内会や自治会を含む「地域における様々な主体における活動への参加割合」を設定していることから、ご提案の数値は当該指標において代替できるものと考えております。	市民生活部地域協働課

(総合計画審議会)委員意見・回答一覧

資料3

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
9	1	2		【体系・指標】 意見・提案	成年年齢が20歳から18歳に変わったことを踏まえ、石巻市在住の高校生の人数の増減を基準にし、18歳から39歳に変更してはどうか。	進学等で一時的に転出した若者が、短大や専門学校などの修了後に本市に戻りやすい環境を整えることが重要と考えています。そのため、進学先での学びを終える年齢を考慮し、基準を18歳ではなく20歳に設定しております。	復興企画部SDGs移住定住推進課
10	1	2		【体系・指標】 意見・提案	実際には、仙台や東京など行き来する多拠点居住や交流人口の人も増えると思われるので、そうした人々の増加も把握していく(裾野を広げていく)ことも重要ではないでしょうか	二地域(多拠点)居住や関係人口の創出は、将来的な移住・定住につながる重要な取組であると認識しております。そのため、後期計画に位置付ける取組として、今後検討してまいります。	復興企画部SDGs移住定住推進課
11	1	2		【体系・指標】 意見・提案	若者への移住・定住ではなく、ファミリー層(子育て世代)の移住・定住を目指す。 理由: 子育て支援を充実させ、若い年齢での結婚・出産の実現を図るため。	ご提案の「ファミリー層(子育て世代)の移住・定住促進」については、若者支援の重要な一環と捉えており、現在の施策案にも反映しております。具体的には、市外に住む子育て世帯を対象とした「定住促進住宅取得等補助金」を実施し、ファミリー層の移住を支援しております。 なお、子育て支援に係る具体的な指標や取組については、第3章第1節で設定しております。	復興企画部SDGs移住定住推進課
12	1	3		質問	「防災訓練の参加率」と「防災情報サービスの登録者数」が達成されると「災害に備えて備蓄している家庭の割合」が増加するののか。	「防災訓練の参加率」や「防災情報サービスの登録者数」を向上させるためには、自主防災組織機能強化事業をはじめ、地域防災連絡会、出前講座、防災フェアなどでの周知啓発活動が重要と考えております。 これらの取組を通じて、地域住民の防災意識の高揚を図ることで、「災害に備えて備蓄している家庭の割合」を増やしていきたいと考えております。	総務部危機対策課
13	1	3	2	【体系・指標】 意見・提案	防災情報サービスの登録者数というKPIの「単年」というのは新規登録者数でしょうか。合計の登録者数や、全市民に対する登録者数(登録率)のほうがふさわしいのではないかと思います。また、登録が形骸化しないよう防災訓練での活用をおすすめします。	携帯電話をお持ちでない児童や高齢者等を考慮し、累計の登録者数や登録率ではなく単年の新規登録者数としております。この指標を採用している背景としては、防災情報サービスの普及促進を図る上で、毎年度の新規登録状況を把握する必要性があるためです。 一方で、合計登録者数や市民全体に対する登録者数の把握も重要であると認識しておりますことから、これらの指標を補完的に活用いたします。 なお、毎年度実施している防災訓練において、登録者に対し訓練メールをお送りしております。登録することが形骸化しないよう、さらなる活用を図ってまいります。	総務部危機対策課
14	1	3	2	質問	KPI設定項目で防災情報サービス登録者数を測定するプラットフォームを教えてください。宮城県が導入しているポケットサインのアプリとは関連づけないのでしょうか？	防災情報サービスの登録者数は、電子メール、LINE、防災電話・FAX登録者の合計人数としております。 なお、ポケットサインアプリとの関連付けは今後検討してまいります。	総務部危機対策課
15	1	4	0	質問	「女性人材育成セミナーの実施」や「性教育講話の実施」により、「自治会等の役員に占める女性の割合」の増加、そして「女性の就業率」向上につながるのか。	男女共同参画社会の推進を図るためには、性別や年齢等を問わず、多様な市民に関わってもらうことで、公正で多様性に富んだ活力ある地域社会を形成してまいりたいと考えておりますことから、両事業の実施により、地域で活躍できる女性人材の育成や、若い世代における男女共同参画の意識啓発を図ってまいりたいと考えております。 しかし、委員ご指摘のとおり「女性人材育成セミナー」や「性教育講話」については、KPI②である「自治会等の役員に占める女性の割合」やKGIである「女性の就業率」の向上に直接的につながる事業とは言い難い事業でありますことから、KGIの向上につながるKPI及び事業の設定を再度検討してまいります。	復興企画部地域振興課
16	1	4		【体系・指標】 意見・提案	各審議委員会の女性審議員の割合をクォーターにする目標はいかがでしょうか。	前期計画においては、市の審議会等に占める女性委員の割合(単年)を40%にすることをKPIの一つに設定し取り組んでおりましたが、後期計画においては、市の取組だけでなく、民間の取組も併せて推進してまいりたいと考えておりますことから、本節における目指す姿の実現につながる指標を設定したいと考えております。 審議会等への女性委員の登用につきましては、第4次男女基本計画の基本目標である政策形成及び方針決定の場への女性の参画推進における評価指標の一つに設定し、40%を目指し取り組んでおりますが、引き続き、女性委員の登用促進に向けて、全庁的に取り組んでまいります。	復興企画部地域振興課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
17	1	4	1	【体系・指標】意見・提案	イクボスが宣言で終わらず、中身を伴うものとなっているかの評価が必要ではないかと思います。	委員ご指摘のとおり、宣言で終わらず、実際に実践していくことが重要であると考えております。市においては、宣言後、毎月第4金曜日を定時退庁日とするワーク・ライフ・バランス推進デーを設定し、各課の取組状況について確認していくこととしております。 民間企業等につきましては、現状、イクボス宣言企業は23社にとどまっておりますことから、まずは取り組んでいただける企業が増加するよう、その必要性や参加促進に向け、周知・啓発を行ってまいりたいと考えております。	復興企画部地域振興課
18	1	4	2	【体系・指標】意見・提案	KPI設定項目で自治会等役員に占める女性の割合とありますが、民間企業や業界団体の数値も加えても良いのではないのでしょうか。	委員ご指摘のとおり、男女共同参画社会の推進を図る上で、民間企業等の取り組みは重要な要素の一つと考えております。しかし、毎年度、評価・検証する数値の把握が、現状、困難でありますことから、指標として設定することは難しいものと考えております。	復興企画部地域振興課
19	1	4	2	【体系・指標】意見・提案	そもそも、市単独取組だけでは推進は難しいのだと感じます。ただ、第1節での意見と若干反するようなことを記載しますが、KPI②の自治会等役員に占める女性の割合は、以前に掲げられていた指標(審議会等に閉める女性委員の割合)同様に、他の組織に強制を強いることになり、適切でないと感じます。何事にも適材適所というものがあると思います。「男女共同参画推進本部会議」でも各種目標指標が掲げられていますが、女性の社会進出は若い世代で確実に進んでいます。もし仮にKPI②をそのままにするのであれば、まずは市役所が率先垂範すべきで、市の管理職ポストに占める女性の割合や、男性職員の育休取得率をしっかりと向上させてから、民間にも女性人材の登用等を求めるべきではないのでしょうか。少なくとも、市役所はそれを出来る法令も含めた環境がどこよりも整備されていると思いますので。	委員ご指摘のとおり、男女共同参画社会の実現のためには、市単独の取組だけでは難しく、子どもの頃から地域や学校、家庭における取組のほか、企業や市民公益活動団体等における連携した取組も必要になります。 KPI②につきましては、委員から頂戴したご意見を踏まえ再度検討してまいります。	復興企画部地域振興課
20	1	5		【体系・指標】意見・提案	公共交通ネットワークの「持続可能性」についての観点が弱いと思われます。また、場合によっては交通手段はバスでなくてもよく、「何らかの手段で移動手段が確保されている」ということが重要ではないのでしょうか。	KGI(客観)にある公共交通利用回数の増加が公共交通の持続には肝要と考えます。公共交通には外出により地域で消費してもらうことや外国人旅行者の増加など、運賃を得る以外の価値もあり、それ自体の収益性よりも利用されることこそが持続可能性を高めることにつながると考えます。 「カーシェアリングや住民の乗り合いでカバーすべき。バス等の運行はお金がかかりすぎる。」という意見もいただいていますので、後期計画に位置付け実施する取組については、頂戴したご意見・ご提案を参考にさせていただきます。	復興企画部地域振興課
21	1	5		【体系・指標】意見・提案	どこの地方都市も単純化して言えば「交通アクセスが悪い(不足している)」から公共交通機関を利用しない(出来ない)のであって、KGIの『公共交通利用者のうち、公共交通に満足している市民の割合』を聞いても、既に利用している人は使える(使いやすい)エリアに住んでいるから満足度は必然的に高いはずなので、(主観)で問うのであれば、全市民に対して問うべきだと思います。それに連なる設問で出てきた課題に取り組むことが、KPI②の公共交通利用率向上につながるのだと思います。 その考え方でいくと、KPI②については、総合交通計画でのアウトカム指標となっている、公共交通分担率やサービスレベルの高いエリアの人口カバー率を向上していくことを指標として設定した方が良いのではないかと思います。	KGIについて、公共交通利用者に対して満足度を問うことは、実際に利用している方々の満足度向上を目指すために重要な指標と捉えております。ただし、ご指摘のとおり、全市民を対象にした意見収集も非常に重要であるため、今後、公共交通未利用者等のニーズも把握した上で、課題解決に向けた施策を講じる必要があると考えています。 KPI②に関しては、総合交通計画でのアウトカム指標として設定している「公共交通分担率」や「サービスレベルの高いエリアの人口カバー率」も当節のKPIとして適しているものと思いますが、両指標とも毎年度数値を測ることができないため、同計画におけるアウトカム指標である「公共交通を利用して外出した市民の割合」を設定しております。	復興企画部地域振興課
22	1	6	0	【体系・指標】意見・提案	KGI設定で、例えば震災の語り部等ボランティア伝承者の人数を把握し、その増減の推移で計測することは如何でしょう。	本市では多くの個人・団体が様々な形で語り部等震災伝承の取り組みを行っておりますが、語り部の定義を明確にすることが難しいため、総数を把握することは困難であると考えております。 語り部等の伝承活動の担い手を育成することは重要なことであり、震災遺構の活用による語り部・伝承者育成講座の開催や市内で活動する団体との連携による震災伝承に関するシンポジウムの開催や研修会等の取り組みを通じ啓発に努めているところです。	総務部震災伝承推進室

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
23	1	6		【体系・指標】 意見・提案	目指す姿とKPIは連動しているように感じますが、KGIは主語が異なるように感じます。「まち」を主語とするか「市民」を主語とするかで考え方が変わってくるかと思います。市の計画ですので、『震災の教訓を後世に伝えるまち』を主語とするのであれば、取組が充実していると感じる市民の割合がKGIにはならない気がします。ただ、市(まち)としては震災遺構の来訪者数は指標として設定すべきだと思うので、別の指標が必要かと感じます。※当然、震災遺構の来訪者＝取組が進んでいるまちではないと思うので、悪しからず。例えば、強制では無いですが、市役所職員も当然含む市民が、だれでも語り部になれるようなプログラムを実行し、語り部等の数を増やす取組を行うこととして、そういった方々の人数を増やすことで、観光プラグ等に取り込み、ただ単に震災遺構を見てきたで終わるのではなく、石巻に行くというといった事が学べる、話を聞くことができる、というパッケージ化していくことが、『後世に伝えるまち』になるかと思っています。	本市の2つの震災遺構は、震災をめぐる事象と教訓を風化させることなく後世に伝え継ぐことを目的に保存と展示を行っており、来訪者数の増加を図ることにより、震災を後世に伝える取り組みにつながるものと考えております。 語り部等の伝承活動の担い手を育成することは重要なことであり、本市としましても震災遺構の活用による「語り部の話を聞く会」の定期的な開催や、「語り部・伝承者育成講座」の実施、市内で活動する団体との連携による震災伝承に関するシンポジウムの開催や研修会等の取り組みを通じ啓発に努めているところですが、成果指標とすることは現状では難しいと考えております。	総務部震災伝承推進室
24	2	1	2	質問	再生可能エネルギーによる発電量を指標にするとして、 ・太陽光発電システム設置家庭の発電量は把握できるのか ・雨水利用タンク設置との関連性は以上2点が疑問である。	太陽光発電システム設置家庭の発電量については、「太陽光発電等普及促進事業補助金」の補助申請書類を基に把握しております。 雨水利用タンク設置との関連性については、自然の降水を貯留し、庭の散水などに利用することで、公共水道の利用が減少し、浄水やポンプ運用に必要なエネルギー消費が削減され、結果として、温室効果ガスの排出削減につながるものとなっております。KPIである「再生可能エネルギーによる発電量」には直接影響しない取組ですが、間接的にエネルギー削減や効率化を促進する点で、再生可能エネルギー施策と関連性があると考えます。	市民生活部環境課
25	2	1	2	【体系・指標】 意見・提案	KPI②について、再生可能エネルギーによる発電量が増えることが目指す姿に結びつくようには思えません。また、環境基本計画では脱炭素ではなく、「低炭素」との表現になっていますが、完全に「脱炭素」を市として目指すこととして良いでしょうか。太陽光発電だけが再生可能エネルギーではありませんが、最近では、山を切り崩し、ソーラーを並べる事例が多く見られます。単に再生可能エネルギーの発電量ではなく、市内の電力消費量のうち、再生可能エネルギーの割合とかにするのはいかがでしょうか。また、グリーンスローモビリティの取組もあまり進んでいないように思いますが、以下第3節の都市機能の向上と合わせて、例えば、ウォーカブルな街の推進などは目標になり得ないでしょうか。	再生可能エネルギーによる発電量が増えることで、化石燃料発電に依存する割合が減り、それに比例してCO2排出量が削減されることとなり、結果、脱炭素なまちの実現に寄与するものと考えます。 また、環境基本計画においても、令和6年3月に「脱炭素」を目指すことに変更しております。 市内電力消費量のうち、再生可能エネルギーの割合を目標にすることについては、測定に必要となるデータが取得できないことから指標への設定は難しいものと考えますが、頂戴したご意見を今後の参考にさせていただきます。 ウォーカブルな街の推進は、地球環境を守る脱炭素のまちを目指す上で一つの手法だと思いますが、市内全域をカバーすることは難しいものと考えております。	市民生活部環境課
26	2	2		【体系・指標】 意見・提案	KPIは手段との関係が深いと思われる。たとえば補助金や意識啓発だけでは大きな成果が見込めるかどうか疑わしいし、費用対効果もよくないのではないか。高い目標を達成するためには規制的なアプローチも組み合わせるのか、あるいは弱い手段で低めのKPIを狙うのか、議論が必要だと思う。	ご指摘いただいたように、KPIと手段の関係性や、目標達成に向けた具体的なアプローチについては重要な課題であると認識しております。指標については、「石巻市一般廃棄物処理基本計画」と整合を図っていることから、現時点では指標の設定は原案のままとし、後期計画において実施する取組については、費用対効果も含め、頂戴したご意見・ご提案を参考にさせていただきます。	市民生活部廃棄物対策課
27	2	2		【体系・指標】 意見・提案	KGI(客観)の一人一日あたりのごみ排出量とKPI①の～「生ゴミ」排出量の差がよくわかりません。石巻市環境基本計画との整合もあるかと思いますが、また、会議の際にも事業者の意識づけの話もあり、事業系は県の所管範囲というご回答もあったかと思いますが、KPIとして事業系のゴミないしは、事業者のゴミ減量化に向けた取組もやはり推進すべきではないでしょうか。	KGI、KPI②では、「石巻市一般廃棄物処理基本計画」のごみ減量化・資源化目標を設定しており、KPI①では、減量化・資源化重点施策である、「燃やせるごみのうち、20%を占める生ごみの排出量削減の取組をもとにした成果」を設定しております。 また、事業系ごみにつきましても、減量化・資源化重点施策として取り組むこととしております。	市民生活部廃棄物対策課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
28	2	3	0	【体系・指標】 意見・提案	KGIの客観が設定なしとなっていますが、「犯罪や交通事故、火事などの発生率」を定めるのはいかがでしょうか。それらが少なければ安全安心な住環境と言えるかと思います。	ご提案のとおり、「犯罪や交通事故、火事などの発生率」が低ければ安全安心なまちになると考えられますが、本節では都市環境の充実による暮らしやすいまちを目指しており、災害への備えや各種インフラの整備・維持管理を主眼に置いた、都市整備上の住みやすさを重視しております。 ご提案の指標を本節に設定することは難しいものと考えますが、委員の皆様からの御意見を参考に、体系及び指標について再検討いたします。	建設部都市計画課
29	2	3	1	【体系・指標】 意見・提案	人口密度がKPIとなっているということは、コンパクトシティ化を目指すのだろうか。「誰もが安心・快適に住み続けられるまち」とはどのようなものなのかという考え方を確認したうえでKPIを設定した方がよいのではないか	本市は、令和6年10月に策定した立地適正化計画に基づき、「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指しており、「都市型居住促進エリア(生活サービス施設にアクセスしやすく、利便性の高い暮らしができるエリア)」への居住を緩やかに促していくための各種施策を示しております。 KPI①で市街化区域の人口密度を設定した背景には、立地適正化計画における「都市型居住促進エリア」を包含する市街化区域において、無秩序な開発等を防止し、効率的なインフラ整備やサービス提供を可能とする「コンパクトなまちづくり」を進める意図があり、これにより、安心で快適な住環境の実現を目指しています。 なお、委員の皆様からの御意見を参考に、体系及び指標について再検討いたします。	建設部都市計画課
30	2	3	1	【体系・指標】 意見・提案	KPI①について、市街化区域の人口密度があがると、誰もが安心して・快適に住み続けられるまちにつながると思えません。また、住環境の向上と市街化区域の人口密度の向上も直接は連動しないと思います。市街化区域の人口密度を上げようとするのであれば、立地適正化計画で述べられているように(本市の場合は居住誘導区域がほぼ市街化区域だが、意図が異なることは注意)、核となる拠点(都市機能誘導区域等)の周辺に魅力的な施設や投資を行っていくことで周辺に人口が誘導されてゆく(誘導されるように対策を講じる)のであって、KPI②都市機能整備の満足度は市域全体の話になるので、2つの指標がかみ合わないように感じます。(※記載の取組も人口密度の向上に寄与するとは思えない。) 上記第1節にも記載しましたが、ウォーカブルやバリアフリーの観点から目標設定をしてはいかがでしょうか。	KPI①については、ご指摘のとおり、単に人口密度を上げることが住環境の向上や「誰もが安心して・快適に住み続けられるまち」に直結するわけではありませんが、人口密度の向上は、効率的な公共交通の維持、生活利便性の向上、および持続可能な都市運営の基盤づくりにおいて重要な要素と考えております。 また、KPI②については、ご指摘のとおり、市域全体で講じるべき事項であり、コンパクトなまちづくりを進める中であっても、各総合支所周辺との交通ネットワークを形成し、市域全体で活気あるまちを目指すべく、各種インフラの整備状況への市民満足度を指標としたものです。 なお、ご提案の「ウォーカブル」や「バリアフリー」の観点は、当節で完結できる内容ではないことから、指標として設定することは難しいものと考えますが、委員の皆様からの御意見を参考に、体系及び指標について再検討いたします。	建設部都市計画課
31	3	1		【体系・指標】 意見・提案	産婦人科医院の誘致・・目標値3年以内に2施設	産婦人科を含む医療機関の開設促進については、第3章第4節の細節2「地域医療提供体制を充実させる」の中で取り組むこととしており、本節においては、ソフト面での取組について記載していることから、KPIを出生数としております。	保健福祉部子育て支援課
32	3	1	1	質問	このKPIについて市は本当にそう思っているのか疑問です。産科が大崎市の4に対して、2しかなく小児ICUもないところで、安心して出産できるのでしょうか？埼玉県八潮市などは、産科誘致をしています、石巻もそういった対策が必要なのではないでしょうか？	分娩機能を有する医療施設の減少など、産科医療提供体制が大きく変化している中で、妊婦健診は地域の診療所等で受け、出産は設備の整った病院で行う、分娩施設と健診施設が機能分担を図る「産科セミオープンシステム」の導入を県全体で進め、本市においては、地域周産期母子医療センターとしてNICUを6床有する「石巻赤十字病院」を核としたセミオープンシステムを構築し、システムを構成する医療機関間の連携により、安心して妊娠、出産ができる環境を整備しております。 また、令和6年度に「医療施設開設支援事業」を創設し、産科、小児科、在宅医療を行う医療機関を最優先に、民間医療施設の開設を促進する取組を進めております。	保健福祉部子育て支援課

(総合計画審議会)委員意見・回答一覧

資料3

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
33	3	1	1	【体系・指標】 意見・提案	KPI②は引き続き取り組んでいくべきと感じます。KPI①について、人口が減っている中で数を維持することに違和感を感じます。KGI(客観)の人口維持も同様です。むしろ、その中でも出産環境が整備されていることや、後半でも出てくる、市職員人件費の抑制に連なる民間保育園への手厚い補助＝子育て環境の整備の充実を掲げた方が良いのではないのでしょうか。また、本章のどこかの節(本節かなと思いますが)でヤングケアラーへの支援を入れる事はできないのでしょうか。今後必ず課題になってくるはずです。	少子化については、全国的に課題となっており、本市においても人口を維持することは容易ではありませんが、本市で生み育てたいと思ってもらえるような施策の充実を図り、子育てをする若い世代の人口や出生数の維持につなげたいと考えております。 また、後期計画に位置付け実施する取組については、頂戴したご意見・ご提案を参考にさせていただきます。	保健福祉部子育て支援課
34	3	2		質問	KGI主観 40歳以上の市民の割合で、40歳以上の根拠は？	本節は高齢者福祉に係る施策であり、高齢者福祉の当事者がいかに施策が充実しているかが分かる数値をKGIとする必要があると考えております。 当事者が誰かとなった際に、高齢者本人及び介護する家族となるものと考えられますが、実際に親の介護が始まる年齢は40歳付近であることが多く、また、40歳になると自身の介護保険料の徴収もはじまり、介護に係る意識も必然的に芽生えると思慮されることから、40歳以上としたものです。	保健福祉部介護福祉課
35	3	2		【体系・指標】 意見・提案	介護予防も在宅支援も、社会的費用を抑えるためという観点が含まれている。その意味では、このKPI・KGIにもっと明確に効率や費用対効果という観点が必要ではないか。	各事業の対象者や成果が異なり、事業推進による社会的費用抑制効果が目に見える指標が困難なため、今回の指標といたしました。	保健福祉部介護福祉課
36	3	2	1	【体系・指標】 意見・提案	KPI①について、要支援・要介護認定率の向上を目標として掲げることに違和感があります。むしろ、要支援・要介護認定を受けなくてもこれまでどおり暮らせる高齢者の数を増やしていくべきではないのでしょうか。	要支援・要介護認定率は、65歳以上の第1号被保険者に占める要支援・要介護認定者の割合であり、当KPIにおいては当該割合の上昇を抑えることを目標としております。 今後は、65歳以上の高齢者人口は減少傾向となる一方で、80歳以上の超高齢者数は増加が見込まれ、認定率等の増加は避けられないことですが、介護予防や生活支援等により、「認定率の伸び率や介護度上昇を抑える」ことを目標に設定しました。そのことが介護認定を受けなくともこれまでどおりにお過ごしいただく高齢者ととらえることができると考えております。	保健福祉部介護福祉課
37	3	2	2	【体系・指標】 意見・提案	KPI②についても、そもそも、KGI(客観)において、単一の目標では捉えきれないとしながらも、在宅生活高齢者であることが良いことであるようなシグナルを与えないでしょうか。最終的には本市は多極ネットワーク型の都市を目指していくべきだと思いますが、現状においては、どこに住んでも同じように介護や支援サービスを受けることができるよう、支援施設等のカバー率や充実度合いをKPIとして設定した方が良いのではないかと、感じます。	介護保険事業の理念として、「住み慣れた地域や環境の中で、安心して暮らせる」ことを掲げており、事業計画の策定にあたって行っている「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」におきましても、病気等になっても最後を迎えたい場所として「自宅や住み慣れた地域」との回答が半数となっております。 また、介護保険における「在宅」とは、「自宅」だけではなく、認知症高齢者や中重度の要介護高齢者ができる限り住み慣れた地域での生活が継続できるようにするためのグループホーム等も在宅生活ととらえておりますことから、高齢者それぞれに応じた「居住」の確保と支援施設やサービスの充実に努めてまいります。	保健福祉部介護福祉課
38	3	3		【体系・指標】 意見・提案	KGI設定のところで、数値化が難しいと書かれてますが、例えばバリアフリー対応の施設(スロープやトイレ・車椅子の設置等)が官民でどのくらいあるのかを把握して、その推移を計ることは出来ないのでしょうか。	バリアフリー対応の施設につきましては、バリアフリー法によって利用者数や施設の規模により、様々な施設でハードとソフトのバリアフリー化が義務づけられています。 民間のバリアフリー対応の施設数については、把握することが困難であることから、指標の設定は難しいものと考えております。	保健福祉部障害福祉課
39	3	3		【体系・指標】 意見・提案	KPIも取り組みも、相談のように障害者を個別に支える観点だけでなく、皆が使うものからバリアそのものを取り扱う(バリアフリー化)という観点も必要ではないか	障害者への「合理的配慮の義務化」により、民間の企業や飲食店においても、障害者への配慮が必須となっております。 市としては講演会等、障害者への理解を深めて頂く取組を行い、障害者が差別と感じる事がないような環境を整備していきたいと考えております。 なお、バリアフリーの観点のKPI設定については、上述38の理由により設定が難しいものと考えております。	保健福祉部障害福祉課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
40	3	3		【体系・指標】 意見・提案	細節に以下の施策を加えることをご提案します。 施策名：障害者の社会参画を促す KPI：障害者の就業者数(あるいは企業側の雇用数)	ご提案の施策について、一般企業に対する障害者雇用の促進や指導等は主に国の機関であるハローワークの役割となっております。 本市におきましても、障害者への理解を深めるため、ハローワークと連携し、企業や地域に向けた啓発活動や支援を行っておりますが、障害者の就業者数や企業側の雇用数を指標として設定することについては、市の直接的な関与の範囲を踏まえた上で、現時点では難しいものと考えております。	保健福祉部障害福祉課
41	3	3	0	【体系・指標】 意見・提案	KGI(主観)について、「障害者にやさしいまちづくり」との記載だと、ハード面での印象を受ける。もしそうなのであれば、例えば、KGI(客観)として「まちのバリアフリー化推進率」もしくは(主観)において「まちのバリアフリー化が進んでいると感じる市民の割合」とし、(主観)ないしはKPI①などで、「障害のあるかたの立場を理解して行動が来ている市民の割合」とかにしてはいかがか。 また、KPI①②について、再考すべきと思ひ、そのうち1つは「公共施設等のバリアフリー化推進率」にしてはどうか。	KGIについては、障害の有無によって分け隔てられることなく、社会参画と意思決定を行い、障害のある人もない人も相互に人格と個性を尊重し合いながら、ともに支え合う社会を推進するために、「障害者にやさしいまちづくり」としました。 KPI①に対するご提案については、大変貴重なご意見として参考にさせていただきます。指標の変更を検討いたします。 なお、バリアフリー化推進率については、適切なデータの収集方法が現状確立できていないことや、「バリアフリー化」の定義が曖昧であることなどから、指標とするには研究が必要になるものと考えます。	保健福祉部障害福祉課
42	3	3	1	【体系・指標】 意見・提案	KPI設定で相談を受けた件数とありますが、相談しやすい体制があるかどうかにも関わるので、相談を受け解決した件数という視点もあるのでは無いでしょうか？	ご指摘のとおり、相談件数のみに着目するのではなく、相談しやすい環境の整備や解決に至った件数を指標とする視点も重要であると認識しております。 この点につきましては、ほかの委員の皆様からのご意見も踏まえ、指標の変更を検討いたします。	保健福祉部障害福祉課
43	3	3	1	【体系・指標】 意見・提案	「障害を理由とする差別に関する相談を受けた件数」についてゼロ件を目指すしていますが、些細なことでも相談をされるということは非常に重要であると考え。吟味が必要ではないか。	施策①については、あくまで障害への理解を深める取組であるため、「差別に係る相談件数ゼロ件」を目指す方針としておりました。 この点につきましては、ほかの委員の皆様からのご意見も踏まえ、指標の変更を検討いたします。	保健福祉部障害福祉課
44	3	3	1	【体系・指標】 意見・提案	障害への理解を深めるのが、相談件数というのが少しずれているような気がします。 バリアフリー整備や、手話教室など障害を持つ方に対して活動している団体や、サークルなどを増やしていくようなKPIが望まれます。	当節におけるKPIは、障害者への理解が深まり、差別や偏見が解消されることで相談が発生しない社会の実現を目指すものです。ご提案の団体やサークルの増加を目指すというKPIの設定については、その意義を理解しつつも、アウトプット寄りな指標と考えられるため、現段階では設定を見送っています。引き続き、多様な取組を通じて障害者への理解促進に努めてまいります。 なお、バリアフリーの観点のKPI設定については、上述38の理由により設定が難しいものと考えております。	保健福祉部障害福祉課
45	3	3	1	【体系・指標】 意見・提案	指標を「相談を受けた件数」としているが、相談しようと思う人がどれほどいるのか。実際、相談すらできない人、家庭もあると思う(相談できる環境なのかどうかも含め)。指標として「そのような現場等を見聞きたことがある」ではどうか。	ご提案の指標については、その実態を把握するために毎年のアンケート調査等で広く聞き取りを行う必要があることから、現時点では指標としての設定が難しいものと考えております。 しかしながら、相談に至らない状況が存在する可能性については重要な視点と認識しておりますので、市としては、相談窓口の周知や利用しやすい体制の充実を図ってまいります。 なお、当KPIについては、ほかの委員の皆様からのご意見も踏まえ、指標の変更を検討いたします。	保健福祉部障害福祉課
46	3	4		【体系・指標】 意見・提案	「心」の観点が弱い。	KPI①を「メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合」としてありますが、メタボリックシンドロームの要因は生活習慣の乱れであり、その原因が精神面であることも多くあるため、指標として設定したものであります。 本節においては、生活習慣病の発症や重症化を予防するための取組のほか、心の健康づくりに関する取組も含め、目標達成に向け各種取組を進めていきたいと考えております。	保健福祉部健康推進課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
47	3	5		【体系・指標】 意見・提案	1つ目と2つ目のKPIがただの裏返しになっているだけで、意味があるのかと疑問に思う。	1つ目のKPI「近所で困りごとの相談ができる・会えば立ち話をする人がいる市民の割合」については、地域活動の基盤である地域での付き合いの程度を見る指標、2つ目のKPI「困りごとの相談者が誰もいない・思いつかない」と回答した市民の割合については、人や相談先とのつながりのない市民を減らし、支援を必要とする人を見逃さない地域・体制の実現に向けての指標としております。	保健福祉部保健福祉総務課
48	3	5		【体系・指標】 意見・提案	KPI①とKPI②は単に設問の裏返しになっているだけで、何を目標とした指標なのかがよくわかりません。例えば、市民一人一人が社会的役割を感じているか、とか、地域のまちづくり活動に参加しやすいか、とかまずは一人一人が地域と関わりやすいか仕組みになっているか、また、なっていくようにどうするか(きっかけづくり)を考えた方がいいのではないかと思います。また、プライバシーの問題が大きく取り沙汰される現代において、民生委員・児童委員の皆さんも些少な報酬で活動がしづらいたとも聞きます。取組として、それらをしっかりサポートできる仕組みづくりが必要に感じます。	KPI①及び②については上述47のとおりです。 民生委員児童委員の皆様には県及び市から活動費をお渡しし、経済的負担軽減を図っているところでございますが、民生委員協力員制度の活用を推奨することや民生委員に依頼する仕事の精査を行うなどして、さらなる負担軽減に努めてまいります。	保健福祉部保健福祉総務課
49	3	5	2	【体系・指標】 意見・提案	「地域におけるつながり」は、「多様なつながり」でどうか。隣近所の地縁だけでなく、もう少し広い範囲での趣味縁やオンラインでのつながり、個人とのつながりだけではなくサークル・組織・公的機関とのつながりも重要。	「地域におけるつながりを創出する」は、地域福祉計画の基本目標の「人と地域が『つながる』仕組みづくり」と連動しており、身近な地域での繋がりに重きを置いていることから、「地域におけるつながり」としております。身近な地域において行う日常生活の助け合い活動や世代間交流活動等に対し互助活動助成金を交付するなど、地域におけるつながりの創出を図ってまいります。	保健福祉部保健福祉総務課
50	3	5	3	【体系・指標】 意見・提案	「地域で助け合いの意識が全体的にある、部分的にある」と回答した市民の割合を設定しているが、「全体的にある、部分的にある」という設問は吟味が必要ではないか。	当KPIについては、毎年度実施している「市民意識調査」において、地域福祉分野の設問の一つである「あなたの住んでいる地域は困っているときの助け合いや支え合いが行われていると思いますか。」への回答が、「全体的にあると思う」と「部分的にあると思う」と回答した市民の割合を設定しているものとなっております。 地域福祉においては、困ったときにお互い助け合える身近な住民同士の関係性を築くことが目標となりますが、そういう地域が広がることで地域福祉が浸透しているかを見る度合いとしております。 助け合いや支え合いが地域に「全体的にあると感じている住民」、「そこまで浸透していないが、まったくないわけではないと感じている住民」という違いをもたせ選択肢として載せているところです。 選択肢の表現については、誰もが分かりやすいと感じる表現を研究してまいります。	保健福祉部保健福祉総務課
51	3	5	3	【体系・指標】 意見・提案	KPIの「地域で助け合いの意識が全体的にある・部分的にある」という言い回しがわかりにくいです。	当KPIについては、毎年度実施している「市民意識調査」において、地域福祉分野の設問の一つである「あなたの住んでいる地域は困っているときの助け合いや支え合いが行われていると思いますか。」への回答が、「全体的にあると思う」と「部分的にあると思う」と回答した市民の割合を設定しているものとなっております。 地域福祉においては、困ったときにお互い助け合える身近な住民同士の関係性を築くことが目標となりますが、そういう地域が広がることで地域福祉が浸透しているかを見る度合いとしております。 助け合いや支え合いが地域に「全体的にあると感じている住民」、「そこまで浸透していないが、まったくないわけではないと感じている住民」という違いをもたせ選択肢として載せているところです。 選択肢の表現については、誰もが分かりやすいと感じる表現を研究してまいります。	保健福祉部保健福祉総務課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
52	4	1		【体系・指標】 意見・提案	地点の交通量だけではなく、「回遊性」を測る指標も要るのではないか	毎年、中心市街地内18地点において、歩行者・自転車通行量調査を行うこととしております。 調査地点ごとや全体の数値の推移等から人の流れを把握し、中心市街地の賑わい、回遊性について検証してまいります。	産業部商工課
53	4	2		【体系・指標】 意見・提案	石巻の基幹産業は漁業です。温暖化の影響で採れる魚種が変化し、石巻を代表する魚の漁獲量が減少している中で、陸上養殖等の新たなチャレンジが必要な時期に来ていると思います。KPIの新たな項目として、DXやAIを使った先進的な栽培漁業への取り組みの新規チャレンジ件数などを設定してみても良いのでは無いでしょうか？	ご提案の陸上養殖については、令和7年度から、参入事業者に対し、導入経費の一部を助成する「陸上養殖システム導入支援事業」を実施いたします。本事業を通じて、陸上養殖の普及促進を図るとともに、プレイヤーの機運を高めてまいります。 なお、ご提案の指標については、本事業における活動指標として設定しております「陸上養殖参入事業者数」と重なる部分があると認識しております。	産業部水産課
54	4	2		【体系・指標】 意見・提案	KGIでは出荷「額」の向上を目指しているのに、KPIでは量しか見ていない。「高付加価値化による額の増加」に重点的に取り組むことも必要ではないか	KGIとして掲げている「出荷額の向上」は、地域の漁業・水産加工業が持続的に発展し、社会変化や環境変化に強い水産業経営の実現を目指しております。その達成に向けたKPIとして「水揚量」や「出荷量」を設定している理由は、量の確保が水産業の基盤を支える重要な要素であるためです。これらの指標により、地域全体の生産力を把握し、施策の進捗を適切に評価することを目的としています。 一方で、高付加価値化による「額」の向上も、漁業・水産加工業の持続可能性を高めるために欠かせない取組であると認識しております。そのため、「ブランド化の推進」や「販路拡大」など、高付加価値化に向けた具体的な取組についても、後期計画に位置付け、実施してまいります。	産業部水産課
55	4	2		【体系・指標】 意見・提案	会議では第3節で農業者数について議論がありましたが、漁業においても、同様に担い手を育成していくことが必要ではないでしょうか。また、水産加工品をつくる技術が石巻にはないとの意見もありましたが、魚が獲れない中で、高付加価値化・業種転換は促していった方が良いと思うので、目標として設定してもいいと思います。	水産業においても、担い手を育成していくことは重要であり、担い手育成総合支援事業により、独立するために必要な経費の補助等の支援を実施しております。 また、ご提案いただいた「高付加価値化・業種転換への促し」については、水産業全体の経営にも関わってきますので、慎重に判断させていただきます。	産業部水産課
56	4	2	2	【体系・指標】 意見・提案	施策名は「水産加工品の流通強化」であるが、主な取組で、石巻産の水産物及びその加工品とあるので、施策名は「水産物及び加工品」にして、一般市民や観光客が新鮮素材が卸値で購入できる仲卸市場の流通にも力点を置く。	「流通の強化」を施策としておりますので、御理解いただくとともに、頂戴したご意見・ご提案を参考にさせていただきながら、水産物・水産加工品の国内需要の維持、流通体制の強化を図ってまいります。	産業部水産課
57	4	3		【体系・指標】 意見・提案	目指す姿の「魅力的な」という部分をKGI・KPIで表現できていないのではない	「魅力的な」という表現については、農林畜産業の将来的な姿をポジティブに伝える意図を込めたものでした。一方で、目指す姿としては少々具体性を欠き、指標や施策と結びつきにくい点があるとのこと指摘は重要な視点であると認識しました。加えて、近年の社会情勢や環境課題を踏まえると、農林畜産業の持続可能性を一層重視すべきという観点から、目指す姿を「持続可能な農林畜産業の振興」と表現する方が、今後の計画の方向性をよりの確に示せると判断し、目指す姿を変更したいと考えております。	産業部農林課
58	4	3		【体系・指標】 意見・提案	細節に以下の施策を加えることをご提案します。 施策名：農林畜産物の多様性を確保する KPI：農地などで栽培される農作物の種類	ご提案の施策については、地域の農林畜産業の振興において重要な視点であると認識しておりますが、本節では細節①及び②の取組の中で、多様性の確保が間接的に反映されていることや、市内で栽培される農作物の数の把握が困難なことから、施策の追加及び指標の設定は現時点では適切ではないと判断いたしました。	産業部農林課
59	4	4		【体系・指標】 意見・提案	細節に以下の施策を加えることをご提案します。 施策名：宿泊希望者の収容人数を増やす KPI：民泊も含め、市内で宿泊受け入れ可能な室数（あるいは収容人数） 理由：宿泊したくても宿泊施設が少ないという状況もあるので	ご提案の施策について、確かに宿泊施設が不足している点は本市としても課題と捉えておりますが、宿泊施設を増やしていくことは容易に実現できるものではないことから、現段階では宿泊施設の拡充よりも「周遊観光の促進と滞在時間の延伸」に重点を置き、観光スタイルを周遊型から滞在型へと変換することに注力したいと考えております。この取組を通じて、宿泊施設への需要の促進も期待するところです。	産業部観光政策課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
60	4	4	1	【体系・指標】 意見・提案	観光入込客数をKPIとするのはわかりやすいが、客単価の低い外国人団体客を増やすことになりかねない。それでよいのかどうか再検討が必要。経済波及効果額を増やすのであれば、客単価の高い観光客に長期滞在させる方向性もあるはず。そしてその方が地域資源を活かした観光振興になるのではないか	「観光客入込数」については、観光統計調査の主要調査項目であり、経済効果を向上させるための要素の一つと考えております。 ご指摘のとおり、経済波及効果を高める観点からは、客単価の高い観光客の誘致や長期滞在の促進も重要です。そのため、本節では、「観光客入込数」をKPI①として観光事業全体の動向を把握しつつ、「宿泊観光客数」をKPI②として客単価や滞在時間の増加に着目し、観光の質的向上を図る構成としています。 これら2つのKPIは相互に補完的な関係にあり、KPI①が観光客の量的側面を測る一方で、KPI②は質的側面を測ることで、最終的にKGIである「経済波及効果額の上昇」を実現する構成となっています。	産業部観光政策課
61	4	4	2	【体系・指標】 意見・提案	KPIの目標設定で宿泊観光客とありますが、宿泊客で良いのではないのでしょうか？観光とそれ以外の目的の宿泊者の区別は困難であると思います。もっとも、国や県がその名称を使用しているので、変更は難しいかもしれませんが。	「宿泊観光客」について、観光統計調査の主要調査項目であり、名称は当該調査との整合を図っております。 なお、観光と観光以外の目的の宿泊者の判別は困難であると考えております。	産業部観光政策課
62	4	5	0	【体系・指標】 意見・提案	新しい創業といった記載はありますが、事業継承の問題には触れられていないので、そのような課題も入れていただきたい。	市で実施している創業者支援事業の中で事業承継である「第二創業者」についても「新規創業者」と同様にとらえ支援していることから、施策名およびKPIにおいて、「新規創業」「および第二創業」と文言を追加いたします。	産業部産業推進課
63	4	5		【体系・指標】 意見・提案	市が直接できることは「市の事業」だけかもしれないが、「市の事業」とは関係がないところでも創業が盛んになることが理想。金融機関や、民間の中間支援組織などによる創業支援活性化もKPIにできないか	総合計画で設定するKPI等の各種指標については、石巻市総合計画推進会議において、評価・検証する必要があることから、民間等が独自で実施する事業について市が直接的に関与できない場合、KPIに設定することは難しいと判断しております。 しかしながら、創業の活性化は地域全体の経済成長において重要な課題であり、金融機関や中間支援組織との連携強化や情報共有を図りながら、創業しやすい環境づくりに引き続き努めてまいります。	産業部産業推進課
64	4	5		【体系・指標】 意見・提案	細節に以下の施策を加えることをご提案します。 施策名：民間企業の新規創業を促進する KPI：民間企業の新規創業件数 理由：細節②の理由と同じ	細節2の『新規創業支援』では、個人事業主から中小企業までを支援対象としているため、民間企業の新規創業促進は既存の施策に包含されております。	産業部産業推進課
65	4	6		【体系・指標】 意見・提案	目指す姿では、「若者が働きがいを感じるまち」としており、地元出身の若者に限定しているわけではない以上、施策が「地元雇用者」に限定するのはいかがなのか。シンプルに、「地元企業の採用人数を増加させる」といった設定もできるのではないか。	市内企業の採用人数を全て把握することは容易ではないことから、指標として設定することは難しいものと考えております。	産業部産業推進課
66	4	6		【体系・指標】 意見・提案	本節の新たなKPI②として事業承継をした人の数を計測してみるのも面白いと考えます。各業界団体に協力を求めることで精度の高い数値を得れると思います。	総合計画で設定するKPI等の各種指標については、石巻市総合計画推進会議において、評価・検証する必要があることから、民間等が独自で実施する事業について市が直接的に関与できない場合、KPIに設定することは難しいと判断しております。 また、民間企業における事業承継の数を把握することは困難であるとともに、事業承継はあくまで企業の経営によるものであることから、指標として設定することは難しいものと考えております。	産業部産業推進課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
67	4	6		【体系・指標】 意見・提案	大学生・高校生の流出防止という守りの姿勢だけではなく、大学生・高校生が都市や世界とつながり視野を広げながら石巻と関わり続けるモデルを確立していくことが重要。石巻から出るなど困り込むのではなく、外部と行ったり来たりすることを前提とするようなKPIは考えられないか？	大学生や高校生が都市や世界とつながり、視野を広げながら本市と関わり続けるモデルの重要性については、深く共感しております。地域内に留まることを促すだけでなく、外部との交流を前提としたアプローチは、若い世代の成長や地域の活性化につながると考えます。 一方で、ご提案の新たなKPIの設定やモデルの構築につきましては、市単独で取り組むには、実現可能性や必要なリソースの観点から課題が多い状況です。そのため、現時点では後期計画において具体的なKPIの設定は難しい状況ですが、今後、地域内外の若者が本市とのつながりを深めるための環境づくりを目指していきたいと考えております。	産業部産業推進課
68	4	6		【体系・指標】 意見・提案	細節に以下の施策を加えることをご提案します。 施策名：市内での若者の働き口を増やす KPI：市内企業の10代から30代の採用募集人数	現状、年齢層別の採用募集人数を網羅的に把握する仕組みがなく、正確な数値の収集が容易ではないことから、指標として設定することは難しいものと考えております。	産業部産業推進課
69	4	6		【体系・指標】 意見・提案	第1章第2節でも同様のことを記載しましたが、数字としては捉えづらいのかもしれませんが、一旦、仙台の大学等に行っても、帰ってきて就職した人数やUターンの割合をしっかりと抑えて、それらの人々を伸ばしていく取組をすべきと思います。	地元の大学や高校を卒業し、Uターン・Iターン・Jターンにより就職した方を把握することは容易ではないことから、指標として設定することは難しいものと考えております。	産業部産業推進課
70	5	1		【体系・指標】 意見・提案	節のKGI設定の部分で、客観的な設定が困難とのことですが、学校の耐震化率を一つの指標として設定出来ないでしょうか？	対象となる校舎・屋内運動場については、耐震診断を実施し、必要な改修工事が完了し、耐震化率はすでに100%となっております。	教育委員会学校管理課
71	5	1		【体系・指標】 意見・提案	KGI客観で設定なしになっているが、教育環境に応じた計画的な安全点検の実施(%)を加えてはどうか。	消防・電気工作物・給水・貯水槽・浄化槽・空調・暖房・昇降機・プール・遊具など、必要とされる設備の点検は毎年全ての学校で実施し、必要に応じて修繕を行っており、実施率は100%となっております。	教育委員会学校管理課
72	5	1		【体系・指標】 意見・提案	「学習環境の「安全性」、「快適性」、「機能性」などの質的な成果を数値化すること」は不可能ではないはず。研究論文などを探してしっかり考えてください。	質的な成果の数値化については、適切な指標を設定するための研究や文献調査が重要であると認識しております。今後、関連する研究論文や事例を精査し、質的な成果の測定可能性について研究いたします。	教育委員会学校管理課
73	5	1		【体系・指標】 意見・提案	細節に以下の施策を加えることをご提案します。 施策名：学校に行きたい児童生徒を増やす KPI：登校率、あるいは不登校率	ご提案の施策については、第5章第2節細節③「就学等に係る支援を図る」の中で取り組むこととしております。 なお、不登校児童生徒は、学校内の問題だけではなく、個人や家庭の問題など様々な要因を抱えており、市の各種支援によつての解決困難なケースもあるため、不登校の低減そのものを目標にすることは難しいことから、協同学習やピア・サポートの取組を充実させ「学校が楽しい」と思える教育活動を展開してまいります。	教育委員会学校教育課
74	5	2		【体系・指標】 意見・提案	2節について、「キャリア教育」が一切触れられていない。地元で職業を体験するとか、地元の企業の話や聞くとか、そういった体験を重ねることによって、4章にも関係するが、石巻市を担う子どもが地元に残ってくれるのではないかと。ぜひ「キャリア教育」という視点を加えていただきたい。	ご指摘のとおり、「キャリア教育」の視点は重要であると認識しております。本市としても職場訪問や職場体験等の体験活動を推進していることから、後期計画においても「キャリア教育」に関する取組を位置付け、実施してまいります。	教育委員会学校教育課
75	5	2		【体系・指標】 意見・提案	「学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合」が、社会を良く抜く力にどうつながるのか見えません。また、KPIを吟味する必要があると思います。	社会を生き抜く力は主体的に他者と関わることで育まれることから、本市では、協同学習やピア・サポートの実践を学校教育活動全体で展開しており、その成果の表れが「学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合」と捉えています。	教育委員会学校教育課
76	5	2		【体系・指標】 意見・提案	全国学力学習状況調査の根本的な狙いは教師の指導力の向上である。よって、1つ目のKPIは「教職員の研修実施率」といったものが設定されるのではないかと。	教師の指導力向上を図る、教職員研修は毎年実施しているところであります。教師の指導力が向上したかを測る視点としても、児童生徒の達成率向上(学力向上)をKPIとしております。	教育委員会学校教育課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
77	5	2		【体系・指標】 意見・提案	社会を生き抜く力を育てること」に学力が重要ということはどうしても引っかかる。スポーツの持つ力は大きく、スポーツを通じて協調性や思いやりの心を持つことができたりするものではないか。学力が重要となると、学校の塾化を図るような学校教育の方針に思える。一緒に遊んだり、スポーツをしたりして、健全な心身を養う場が学校であって、あまり点数にこだわるのではなく、学校に行くのが楽しくなるような環境づくりが必要だと思う。	学力には、知識・技能のような点数化しやすいものだけではなく、子供たちがこれから出会う未知の課題に対しても自分で考えたり、他者と協働で話し合ったりしながら答えを導き出していく力も含まれていると捉えています。 体を動かすことを含めた学校の教育活動全体を通じて、社会を生き抜く力を育てていきたいと考えております。	教育委員会学校教育課
78	5	2		【体系・指標】 意見・提案	就学支援のKPIは、「〇〇と思う保護者の割合」というような間接的な指標ではなく、市がどれだけ行動したかを示すようなアウトプット指標の方がふさわしいのではないかと	就学等に係る様々な支援については、児童生徒やその家庭への適切な支援を行うことが重要であると考えており、そのため、保護者の方々が「相談体制や対応が充実している」と感じられるかどうかは、支援が実際に届いているかを評価する上での重要な指標であると位置付けております。 市がどれくらいの行動をしたかというアウトプット指標については、当細節において展開する個別事業の指標として設定しておりますので、毎年度評価検証してまいります。	教育委員会学校教育課
79	5	2		【体系・指標】 意見・提案	KGI(主観)について、学校に行くことが出来る生徒に「楽しいか？」と聞けば「楽しい」となるはずなので、極端なこと言えば、不登校率の低減などを目標にした方がいいのではないのでしょうか。若干、客観指標にはなってしまいますが。	不登校児童生徒は、学校内の問題だけではなく、個人や家庭の問題など様々な要因を抱えており、市の各種支援によっての解決困難なケースもあるため、不登校の低減そのものを目標にすることは難しいことから、協同学習やピア・サポートの取組を充実させ「学校が楽しい」と思える教育活動を展開してまいります。	教育委員会学校教育課
80	5	2	1	【体系・指標】 意見・提案	【施策名】学校教育の充実→社会教育の充実	学力向上のため施策は学校の教育課程として行われる教育活動と捉えておりますので、『学校教育の充実』としております。	教育委員会学校教育課
81	5	2	2	【体系・指標】 意見・提案	KPIのところで、「自分には良いところがある」と思う児童生徒の割合に加えて、「他人の良いところを認めることができる」生徒の割合を加えられないでしょうか？他人をいじめるのではなく、お互いの良いところを認め合える人になって貰いたいと思います。	児童生徒は、自身を見つめたり他者に認められたりすることによって、「自分には良いところがある」と実感するものと捉えており、このことは、互いの良いところを認め合えた成果の表れでもあると考えます。	教育委員会学校教育課
82	5	3		質問	防災教育の理解度は何で測るのですか？	アンケートを実施し、理解度を測ることとしております。	教育委員会学校安全推進課
83	5	3	1	【体系・指標】 意見・提案	【KPI】防災教育に対する→防災に対する	東日本大震災を経験していない児童生徒が多くなっている状況で、防災教育を実施することそのものの重要性や必要性を理解してもらうことも重要であるため、防災教育に対するという表現をしております。	教育委員会学校安全推進課
84	5	4	0	【体系・指標】 意見・提案	19歳・23歳・66歳の社会増減と「地域ぐるみの子育て」の関係がわかりにくい。中高生向けの取り組みをKPIや「主な取り組み」に入れてはどうか。	「地域ぐるみで子供を育てるまち」により地域への愛着が高まり、石巻で生きていくことを選択してくれるという考えから設定しております。 また、主な取組にあるジュニアリーダーは中高生対象の事業であることから、わかりやすい表記を検討いたします。	教育委員会生涯学習課
85	5	4		【体系・指標】 意見・提案	客観のKGIを「地域文化継承や多世代交流を主目的としたイベントへの参加人数」とすることをご提案します。計測が難しい場合は、「イベントの開催数」でも良いのかもしれませんが。現状の客観のKGIでは「目指す姿」との関連性が遠すぎるように思います。	「地域ぐるみで子供を育てるまち」により地域への愛着が高まり、石巻で生きていくことを選択してくれるという考えから設定しております。 「イベントの参加人数や開催数」については、取組における指標として参考にさせていただきます。	教育委員会生涯学習課
86	5	4	0	【体系・指標】 意見・提案	会議でも意見がありましたが、KGI(客観)について、かなり無理がある指標だと思います。市独自の取組ではないですが、ボランティア活動やまちへの関わりを深めている中学生や高校生は増えています。総合的な学習の時間においてそういった取組をしている学校もあります。強制は変ですが、やはり、そういった体験をした(できた)学生の人数とかをアンケート等で実施することの方が、KPIにもつながると思います。	「地域ぐるみで子供を育てるまち」により地域への愛着が高まり、石巻で生きていくことを選択してくれるという考えから設定しております。 いただいたご意見につきまして参考にさせていただきます。	教育委員会生涯学習課
87	5	5		【体系・指標】 意見・提案	①のKPIの他にもう一つ②として、石巻の歴史・産業構造・自然環境等を学び合う「石巻学」みたいなプログラムを実施し、その成果を指標として捉えて行くという考えもあって良いのでは無いでしょうか。	ご提案の「石巻学」につきましても枠組みとしては、①に分類されると思います。いただいたご意見につきまして参考にさせていただきます。	教育委員会生涯学習課

No.	章	節	細節	意見分類	委員からの意見・質問等	市の回答	担当課
88	5	5	1	【体系・指標】 意見・提案	細節①のKPIを以下のように変更することをご提案します。 KPI: 市主催の市民講座などへの受講者数 現状のKPI「学習意欲がました人の割合」はKPIとして曖昧すぎるように思いました。	KPIは節における最終的なアウトカムとなることから、「市民講座などへの受講者数」につきましては、取組における指標として参考にさせていただきます。	教育委員会生涯学習課
89	5	5	1	【体系・指標】 意見・提案	KGI(客観)、KPI①について言えることですが、生涯学習には主な取組にも記載のとおり、文化や芸術に触れることや体験すること含まれると思います。その中で、「学習に取り組む」「学習意欲」とすると、どうしても「勉強」的な意味合いが強く、市民にとって身近なものに感じられにくいでしょうか。いずれかを「文化芸術活動等に触れた、体験した市民の割合」としてはいかがでしょうか。	今回の資料においては主な取組が記載されていますが、本節には文化や芸術に触れる取組も位置付けてございます。 ご提案の「文化芸術活動等に触れた、体験した市民の割合」につきましては、取組における指標として参考にさせていただきます。	教育委員会生涯学習課
90	5	6		【体系・指標】 意見・提案	「健康寿命」という指標が短期的な施策によって簡単に改善するものであるのかどうか、要確認。	スポーツには、身体的な健康だけでなく、精神的な充足感を高め、さらに仲間づくりなどのコミュニティの活性化など、健康で過ごすため効果が発揮されることから、市民のスポーツ実施率の向上は、健康寿命の延伸につながるものと考えております。 また、スポーツの他にも様々な施策を展開することで、より効果的に健康寿命の延伸につながるものと考えます。 なお、国の第3期スポーツ基本計画(R4～R8)においても、スポーツによる健康増進に関するエビデンスは蓄積されており、スポーツを通じた健康増進により健康長寿社会を目指しております。 健康寿命の延伸にスポーツ実施率の向上を通じて貢献するという目標が設定されております。	市民生活部スポーツ振興課
91	6	1		【体系・指標】 意見・提案	「オンライン化の推進により、行政手続きが便利になったと思う市民の割合」は、「オンライン手続の利用率(の向上)」でもよいのではないかな。	KPIとしては、オンライン手続き利用率が向上した結果として得られる成果を図るための、市民の利便性向上を重視する指標にいたしました。 なお、オンライン手続きの利用率については、個別事業ごとに成果を測る数値指標として設定する予定としております。	総務部秘書広報課
92	6	1	1	質問	市政全般への関心度か？ 施策ごとへの関心度か？	市政全般への関心度となります。 各個別事業におけるニーズ把握と情報発信を推進することにより、市民と市の相互理解と市政への関心が高まることから指標にいたしました。	総務部秘書広報課
93	6	2		【体系・指標】 意見・提案	具体的なご提案ではなく恐縮なのですが、細節①②ともに出費を抑えるという方向のKPIになっていると見受けられます。民間企業で言うところのROICのような、投資したお金に対してどのようなリターンがあったかを測れる指標も定めることはできないのでしょうか。	民間企業同様、行政においても収支が赤字になることは問題がありますが、一方で、黒字を追求するものでもないことから、ROICのような利益に関する指標を設定することは難しいものと考えております。	総務部財政課
94	6	2	2	質問	主な取組より適正な職員数の配置に努める。 現在の正規・任期付等の職員数は？ 何人が適正と考えているか？	本市の職員数については、令和6年12月1日現在で1,573人、うち任期付職員は82人となっております。 なお、本年1月に策定した「石巻市職員定員適正化計画」においては、医療職及び高校教諭を除いた令和6年4月1日時点の職員数1,287人を基準とし、令和12年4月1日の職員数1,225人を目指すこととしています。	総務部財政課